令和八年 新年のご挨拶

医療法人博愛会
牧港中央病院
理事長　洲鎌盛一

新年、明けましておめでとうございます。と冒頭で書きましたが、すでにお正月気分は抜け２０２６年（午年）はすでに目まぐるしく走り出しています。博愛会牧港中央病院・にぬふぁぶし診療所・訪問看護ステーションは地域の人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう地域包括ケアーシステムを推進していきます。

年頭に当たり、いつものように職員の皆様と次の事を共有したいと思います。病院理念『私たちは患者様や家族に信頼され、地域社会に貢献できる質の高い安全な医療を実践します。基本方針に循環器疾患、血液透析治療、在宅医療、外国人診療等への取り組み・実践を掲げています。沖縄県の救急指定病院でもあります』そして、経営理念に「次世代に残せるような安定性と、発展性のある病院作りの追求」を掲げています。

昨年の年頭挨拶文の大きな目標として、心臓血管外科《再生・進化》を取り上げましたが、昨年４月から宗像宏先生、今年１月から大石淳実先生と新しい心臓外科医の仲間が加わり、今年は希望の持てるスタートが切れたと思います。引き続き、麻酔医を含めた医師・看護師・各部署の人材確保・育成に取り組んでいきたいと思っています。

医療法人博愛会は、故山口栄豊先生が１９７６年（昭和５１年）６月１４日に設立し、今年は節目の５０周年を迎えることになりました。開院当初は外科、内科、小児科、循環器科、眼科、整形外科があり総合病院に近い形態でした。現在では循環器外科・内科、腎臓内科・血液透析、在宅医療、外国人診療に特化し、呼吸器内科、総合診療科を加えた診療体系に変遷してきています。

これまでを振り返ると、博愛会が地域の皆様・職員の皆様に支えられながらここまで継続できたことは奇跡に近い出来事のように思えます。その思いを込めて、２０２６年９月１０日に開設５０周年記念式典を計画しました。式典テーマに《半世紀の感謝と共に博愛の心を次世代へつなげる～新たな５０年のはじまり～》を掲げました。皆さんと一緒に記念式典を盛り上げていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

今後の医療法人博愛会の方向性ですが、専門性に特化するだけでなく、患者さんの家族や生活背景まで含めて診る、地域に密着した医療・診療を目指していく必要があると考えています。今後も、社会情勢の環境は厳しくなり、難しい課題に直面していくなかで、患者さんが来たらとにかく対応する姿勢がこれからの病院経営・運営にとって大切な事と思います。

今年の漢字一文字を考えたときに悩みましたが、【信】にしました。信頼、信念、信仰などの言葉が思い浮かびます。２０２６年も皆さんと一緒に次世代に向けて頑張っていければと思います。

結びに、今年も皆様とご家族にとって素晴らしい一年となるよう祈念いたします。

新年のご挨拶

医療法人博愛会
にぬふぁぶし診療所
院長　大濵篤

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

旧年中は、にぬふぁぶし診療所（訪問・外来診療）及び訪問看護ステーションにぬふぁぶしに、たくさんの患者さんのご紹介、そしてお忙しい中、人材派遣をして頂きまして、感謝申し上げます。お陰さまで、前年よりも業績をあげることができました。

また、何より患者さんへの対応の質を更に高めていくことができてきたように思います。牧港中央病院からご紹介頂いた患者さん、あるいは逆紹介の患者さんが自宅や施設で平穏に療養されております。まもなく１１０歳をお迎えになる方は、私の顔と名札を見て、唄いながら、『あい、大濵先生』って言ってくれます。外来では、１０６歳の方は、杖歩行で来院。診察室に入って来られ、『元気です』と。このエネルギー、パワーは、どこからくるんだろうって、いつも思います。

ところで、今年の干支（えと）は『午（うま）年』。馬は古来より、運気上昇・成功・活力・物事が勢いよく進むこと等」を象徴する縁起の良い干支とされています。また、努力が実を結び、道が大きく開ける年ともいわれています。

最後に、感動した歌詞の一節をお届けします。

『いくつもの日々を超えて　巡り着いた今がある
だからもう迷わずに進めばいい　栄光の架け橋へ』

皆さん、今年も素敵な
一年にしていきましょう。

新年のご挨拶

医療法人博愛会
牧港中央病院
事務長　嘉陽宗貴

新年明けましておめでとうございます

昨年は、職員の皆様、そして地域の皆様の温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

博愛会は、本年　法人開設５０周年の大きな節目を迎えることとなりました。これもひとえに地域の皆様や、長年にわたり現場を支えてきた職員一人ひとりのご尽力の積み重ねによるものと、深く感謝いたします。

５０年という歴史は、ゴールではなく、新たなスタートラインであると思っています。これまで培ってきた信頼と経験を基に理念に沿い、地域社会に貢献できる病院であり続けられるよう、努力してまいりたいと思います。

引続きご協力の程、宜しくお願い致します。

新たな一年が、皆様にとってよい一年であるよう祈願致します。

今年も、宜しくお願い致します。

新任医師挨拶

医療法人博愛会
牧港中央病院
心臓血管外科
大石淳実

２０２６年１月より赴任いたしました、大石淳実と申します。２００７年に順天堂大学を卒業後、同大学心臓血管外科に入局し、１８年間にわたり心臓・血管外科手術に携わってまいりました。開心術や血管手術を中心に経験を積むとともに、近年はストラクチャーハートディジーズ（ＳＨＤ）をはじめとする低侵襲治療にも取り組んでおります。

沖縄は高齢化が進む一方で、地域に根ざした医療の重要性がますます高まっていると感じ、この地で医療に貢献したいという思いから赴任を決意いたしました。大血管ステントグラフト治療、末梢血管手術、下肢静脈瘤手術なども含め、これまでの経験を生かし、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活できる医療を提供してまいります。心臓・血管に関してお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

今後ともよろしくお願いいたします。

牧港中央病院 心臓血管外科セミナー開催

先日、心臓模型、豚の心臓を使った体験型の心臓血管外科領域の手技を体験しました。対象は心臓血管外科に興味のあるスタッフで医師だけでなく、看護・介護分野、診療技術分野、リハビリ・栄養部門、事務部門などメディカルスタッフに加え、医学生、看護学生の参加など、50名を超える参加となりました。

セミナーは宗像先生による講義から始まり、心臓模型、豚の心臓を使って弁や冠動脈の走行、刺激電導系などの解剖、手術適用の疾患の説明や手術器具を実際に操作する体験、手術の流れなどを学びました。大石先生にも協力していただき、みなさんが興味をもって積極的に臓器や手術器具に触れ、質問も活発に行われました。

メディカルスタッフは直接執刀することはありませんが、医師が行う治療内容を理解しておくことは、器械出しや術前後管理、適切な診療報酬による効果的な手術室運営を行う上で、貴重な経験となりました。

また、先生や多職種とのコミュニケーションの場ともなり大変有意義な時間となりました。

参加されたスタッフがこの学びから、自分の役割はなにかを意識し、ひとりひとりが牧港中央病院の発展に貢献できる礎となればと考えます。

手術・カテ室
津波古充友

衛星電話購入!!

今回、災害発生時の連絡手段を強化するため、衛星電話を新たに購入しました。あわせて実施訓練を行い基本的な使い方や注意点を確認し、緊急時でも落ち着いて対応できるよう理解を深めました。

当院では透析治療も行っており救急指定病院でもありますので、防災意識の向上に取り組んで、災害時でも地域に貢献できる医療機関を目指したいと思います。

経理
大山朝也

地域活動推進チーム活動報告

当院では、2024年9月より、地域のコミュニティと連携を密接にし、疾病予防の観点から地域に出向いて健康増進に関するサポートを行っていくことを目的に、地域活動推進チーム（多職種からなる栄養士、理学療法士、看護師、事務職）が発足しました。

念願であった、近隣企業での健康相談教室やハートライフ病院さんの協力病院として、市民公開講座を開催することができました。2026年度も、他施設、行政、地域のコミュニティとの連携を密にしながら、地域活動を推進していきます。

＜活動実績＞
健康相談教室は、8回開催
市民公開講座は、3回協力病院として参加

第1回　2025年2月15日 宜野湾コンベンションシティ
テーマ「腎臓病のことを知ろう」
腎臓内科 小林竜司先生

第2回　2025年10月4日宜野湾コンベンションシティ
テーマ「心臓の病気について」
循環器内科 副院長 眞榮平直也先生

第3回　2025年11月15日サンエー西原シティ、
テーマ「不整脈に対する心臓手術の最前線
ーウルフオオツカ手術についてー」
心臓血管外科部長・副院長 宗像宏先生

地域活動推進チーム
外間貴子

第59回 院内学術大会

去った12月5日に、第59回院内学術大会が開催されました。今回は、7部署からの発表がありました。アンケート結果は以下の通りです。

【1位】放射線技師
CTを用いた防護用
プロテクター内部点検と
管理改善への取り組み

【2位】4階病棟
「般病棟における
「筋ジストロフィーの患者」
～入院から在宅退院へ向けての
取り組み～

【3位】血液浄化療法室
外来透析患者における
防災意識の現状と課題
～アンケートから
見えてきたこと～

記念すべき第60回は、6月を予定しています。教員委員会としても、第60回の回を盛り上げ、成功できるよう頑張って参ります。皆さま、ご協力の程よろしくお願い致します。

教育委員会
大城紀代美

2025年10月28日の沖縄タイムス紙に当院上席副院長／不整脈治療統括責任者の比嘉聡医師の記事が掲載されました!!

沖縄タイムス　第3種郵便物認可

LiFE くらし　月・火・水曜日に掲載

「隠れ心房細動」に注意

小型心電計で不整脈の捕捉率向上

早期発見が鍵 脳梗塞防ぐ

不整脈の一種で脳梗塞や認知症のリスクを高める「心房細動」。高齢化の進展に伴い増加傾向にあるが、初期症状は軽微で気付かない場合が多い。早期発見には定期検診などでの心電図検査が有効だが、短時間のため見逃される恐れもある。不整脈の捕捉率を上げるには数日間の計測が効果的だ。近年は胸に貼るだけの小型心電計が登場し、日常生活を送りながら計測が可能となった。（社会部・下里潤）

最長7日間の連続着用が可能なパッチ型の心電計

心房細動は加齢や生活習慣の乱れなどが原因とされ、心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えてけいれんする病気。血液がよどむことで血栓ができやすくなり、脳の血管に詰まると脳梗塞を引き起こす。

国内の患者数は100万～200万人、県内は1万～2万人と推定されるが、無症状で気付かない「隠れ心房細動」も多く、正確な数は分かっていない。県内は肥満やアルコール摂取量が多く、心房細動になる可能性が高いとの指摘もある。

初期症状は動悸や息切れ、めまいなど軽微な場合が多く、患者自身も「ストレスかな」「年齢のせいかも」などと見過ごしがちだ。発見が遅れると心不全など重大な病気のリスクが高まる。中でも、脳の血管が詰まる心原性脳塞栓症は「ノックアウト型脳梗塞」とも呼ばれ、死亡率が高い。突然発症し、一気に重症化する可能性が高いので注意が必要だ。

脳梗塞のリスクを抑えるには、血液をさらさらにする薬を飲む方法がある。牧港中央病院（浦添市）上席副院長で、不整脈や心不全治療統括責任者の比嘉聡医師は「若い患者だと一生、薬を飲み続ける必要があるのが難点」と説明。同院では、安全性が向上した「パルスフィールドアブレーション」と呼ばれる新しいカテーテル治療の検討を勧めている。

健康寿命の延伸に向け、早期発見の重要性も強調する。「隠れ心房細動」を見つけるためには1週間、胸に貼り付けるタイプの小型心電計が有効だとし、「期間中はシャワーも運動もOK。完了後は郵送するだけなので離島の人でも気軽に利用できる」と説明する。

その上で「脳梗塞になると寝たきりになる可能性がある。自分だけでなく家族も負担が大きい。心電計は保険適用されるので、症状がある人は医師に相談してほしい」と呼びかけた。

・牧港中央病院

牧港中央病院・比嘉医師「日常生活送りながら計測可能」

また、２０２５年１１月２４日　RBC 琉球放送にて
『意外と知らない心臓のこと
～不整脈・心房細動治療の今～』
比嘉聡医師他不整脈チームのテレビ放映がありました。

2026 年男・年女 新年の抱負

今年、私は年男を迎えました。干支が一巡し、改めて原点に立ち返る節目の年だと感じています。

医療従事者として働く中で、日々の業務に追われ、慣れや忙しさから基本を忘れてしまう場面もあります。だからこそ今年は基本の徹底を目標に掲げました。一つ一つの確認、声掛け、報告を丁寧に行う事。それは特別な事ではありませんが、患者さんの安全と安心を守るうえで最も大切なことだと思います。また、医療は日々進歩しています。今年は知識や技術のアップデートにも意識的に取り組み、学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。さらに、チーム医療の一員として、周囲への感謝とコミュニケーションを忘れず、相談しやすい頼られる存在を目指します。

年男の一年を次につなげる成長の年に出来るよう誠実に医療と向き合っていきたいと思います。

臨床工学技士
新垣仁寿

私は牧港中央病院に入職して、二回目の年女を迎えました。この十二年間で病棟、HCU、カテ室、手術室と、色々な業務を経験し、昨年からは、副主任に任命される事となりました。

今年の抱負として、病棟の管理職を担いながら、手術室の看護師としても更なる成長を目指して頑張りたいと思います。

一般病棟
砂川未来

【発行】医療法人博愛会　牧港中央病院　沖縄県浦添市牧港１１９９番地
【制作】システム：大川　看護部：外間、大城、國仲、古堅　薬局：仲里
【発行責任者】看護部　外間貴子
【TEL】098-877-0575　【FAX】098-878-3415